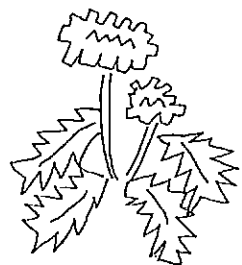


たんぽぽ

NO99
 H7年9月1日
 -発行-
 〒869-12 熊本県菊池郡
 大津町森54-2
 社会福祉法人
 三気の会
 三気の里
 ☎096-293-8100



全国大会を終えて

理事長 田中 稔

台風接近のニュースが流れ、空模様を心配しながら、いよいよ全国大会が始まりました。

私自身は何もしていませんし、何かあった時に責任を取ればいいし、それが私の役割だと思っていましたから、特別な気負いはありませんでした。

会場で富山の中田さんを初め、懐かしい方々に再会できました。今回、全国北は北海道から南は沖縄まで、沢山の方に参加いただきました。中でも全国唯一の地域協議会である九州協議会の各県からの参加協力は、心より嬉しいものでした。励ましやご支援のことも多く頂きました。

会場が離れていたにもかかわらず、分科会は盛況で、各先生方の協力によりまして満足できる内容であったようです。

県立劇場における本大会は設営、運営、内容、いずれも参加された方々より良い出来であったとお褒めのことばを頂いたようです。

目立ちませんでした。がボランテニアの学生さんと共に、大会両日にわたって保育を無事にやり遂げて頂いた担当の人達にも頑張っていたいただきました。

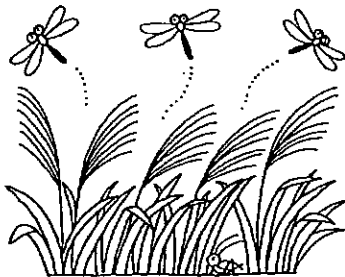
又、いろいろな場面で多くの人達に支えられた大会の運営でした。心よりお礼申し上げます。

いくつかの手違いもありました。しかし大切なことは大会開催の趣旨である、「保護者を初めとして、多くの関係者が大会に参加することによって自閉症児者が置かれてある現状を見つめ、自分と親の会の意義や役割をもう一度確認しよう」ということができたかどうかです。この答えは時の流れが出してくれそうです。

やらせてみれば、一人一人のお

母さん、お父さんがやれるということを見せて頂きました。特にこれからの親の会を背負っていただく若い保護者の頑張っておられる姿に、安心して会長を交代できるという観を持ちました。

来年は福岡で九州大会が、2年後には岩手で全国大会が開催されます。今回のお礼も兼ねて、皆で積み立てをして参加しましょう。



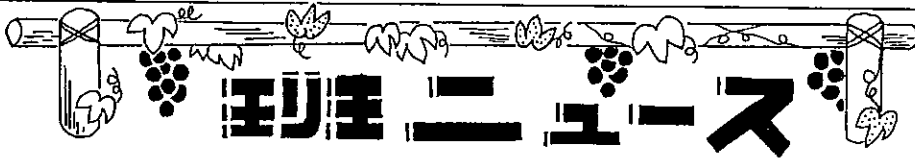
—のん気 - こん気 - げん気—

▽8月も終わろうというのに、何を見ても聞いても酷暑。猛暑という言葉が踊っている。今年の紫外線の強さは例年以上に厳しく熱射病等で病院にかかった人も多かったとか。三気の里では、幸い大事には至ることもなく、休みを終え健康的にこんがり焼けた仲間が元気に戻って来ました。

▽日中の日差しはまだまだ厳しい。しかし、三気の里の周辺の田圃は、緑の稲が風に揺れ、渡る風は一服の涼を生んでいる。朝晩の気温の変化は秋の気配を確実に伝えてくれる。

▽計報。去る8月12日山本昌夫先生(熊本県立大学)が急逝されたとの悲しい知らせが届いた。あまりの突然の死に多くの職員が言葉を失った程である。山本先生には、三気の里開設以来公私に渡ってお世話になった。特に動作法訓練に関しては、8年間の長きに渡って師事して頂く事が出来た。まだまだ未熟な我々ではある、天より見守り下さるようお願い致しますとともに心より冥福をお祈りします。





1 班 - 熱い夏の再活動

夏季帰宅訓練の期間も終わりに近づき、三気の里にいつものにぎやかさが戻ってきつつある。我がパッキンチームは夏季帰宅終了と同時に納期を迎えることもあり、お盆の過ぎた17日から早速作業を再開した。それまでエアコンのきいた部屋でぼんやりとすごしていたみんなは、暑い作業棟もパッキンも嫌がるかと思いきや、急にキリリとした表情で、あっという間に製品を仕上げってしまった。(いやー、あっぱれ！)

プールでたっぷり泳いだ亮君、温泉へ行った俊ちゃん、山登りやボールなげをしたひで君、掃除や洗濯で大活躍したゆかりさん、バーベキューでちょっと太ったのりちゃん、花火大会をしたえいちゃん、新聞をくまなく読んだかっちゃん、宿題をたくさんやったまー君と建ちゃん、そして「オカーサン」と何度もおしゃべりした健二君、それぞれ充実した夏季帰宅で、バッチリ充電！今年後半も、力いっぱい頑張れそうです。

平川

2 班 - こたえるぜ!! 酷暑

長い長い夏休みが終わり、みんなが重くなった身体で賑やかに戻ってきました。8月の大半をクーラーの効いた部屋で過ごしていた身体には風の通らない作業棟の暑さがこたえ、作業をする手も汗を拭くのにと取られて作業ペースが落ちぎみのようです。そんな様子をしり目に黙々と作業をする民さん、さとちゃん、泰彰君に負けまいと自分を励ましがんばる正樹君同様職員の声がとびます。私も「暑いね」とかけられる声に「でもがんばろうね」と自分に言い聞かせるように答え続けます。暴れてなくて済むものなら私だって暴れるなあと思いつつ、顔一杯に汗をかき、きつい表情を見せながらも作業をしているみんなの顔を見ると自然と作業する手が早くなります。みんなの強い精神力にただただ感心するばかりです。

暑い夏ももう少しだよ。がんばった後には必ずいいことがあるからガンバロウ!

石丸

3 班 - 熱唱カラオケ大会

去る、8月23日私たち木工班は先日行われた夏祭り(カラオケ大会)のときに頂いた、賞品の1万円のカラオケ券で大津町の“ステージYOU”へカラオケ大会に出かけました。連日の猛暑続きで作業棟の中は35度をこえる暑さが続き、涼しいところで息抜きをかねてカラオケにいったのですが、何せ20名以上にもなる人数が1部屋に集まるのですからクーラーはついていても、みんなの熱気でむんむんしていて、かえって外のほうが涼しいくらいでした。そんな中でも少しもめげずに特意の歌を披露してくれた修ちゃんに剛くん、久美加ちゃん、アニメの曲ならおまかせのまこちゃん、その横で好きな曲が流れると踊ったり、走り回っていた真一郎くん・雄ちゃん・泰貴くん、その反対に嫌いな曲が流れると意地でも聞こうとしなかった順ちゃんと憲ちゃん、みんなの歌を最後までずっと静かに聞いていた新ちゃんに武ちゃんに稔くん、一緒に歌のメロディを口ずさんでいた昭子さんに一章くん、最初から最後まで選曲本を手放そうとしなかったてっちゃん、“美空ひばりがよか”というのでいざいれてやると“知らん”と言って席に帰ろうとしてしまうミドリさん、暑さのためクーラーの近くを離れようとしなかった友ちゃんに大ちゃんと、みんなの様子は様々でした。帰りのバスの中では、指導員も今度行くときまでにみんなの好きな歌をマスターしておこうと決意をあらたにしていました。

今回は帰宅中のため希久ちゃんは参加できなかったけど、まだ券は1枚も残っているので今度はみんなと一緒にいこうね!

石井

4 班 - V i v a S u m m e r

まだまだ暑い日が続いていますが皆さんいかがお過ごしでしょうか。ある庁の予報によると今夏は冷夏になる！といった長期予報だったのですが、いざ蓋を開けてみるととんでもない猛暑、酷暑だったような気がします。そんな中での我々農耕班の夏季帰宅訓練後の最初の仕事は、基本中の基本、定番と言っても過言ではない“草取り”です。みんなが家庭でゆっくりしている間に、草もドンドン大きくなって薩摩芋と区別がつかないくらいに、伸びに伸びています。みんなは、楽しかった家庭での余韻に浸る間もなく、きっと草取りに追い立てられていることでしょう。

みんなが“頑張る気持ち”を家庭に置いて来ずに帰園してくれることを祈っています。そして、このたんぼが皆さんのお手元に届くころには、きっと畑の草も片付いていると信じています。昨年行けなかったプールに、今年はみんなそろって行って、2年越のV i v a S u m m e rの夢叶えよう。P.S. 一足早く1人だけハワイでV i v a S u m m e rして来た人もいるけど…プツプツツ…

木下

5 班 - 夏真っ盛り

ミンミン、朝から鳴き続く蝉の声。「今日も暑いね〜」と、いつもの言葉でいつもの様に挨拶。「おはようございまーす。」と元気な声で返してくれるのは宏幸君。他のみんなを見渡すと、作業の前から汗びしょり。麦藁帽子を深くかぶって作業開始。毎日、次から次へと生えて伸びてくる雑草との戦いです。草取りなら右に出るものがない泰ちゃん。「頑張れ〜、頑張ろう」と掛け声が上手で、頑張り屋の陽ちゃん。みんなが一つになって頑張れば、あっと言う間に草の山が出来ちゃいます。

職員も、こうしたみんなの頑張りで元気つけられ、負けじと頑張りますが、みんなにはかないません。どこからこんなパワーが出てくるのかなあ〜?と思い、「みんな頑張ってるね〜」と聞くと、返ってくるのは、「もうすぐ夏休みだもん！頑張らなん。」なるほどと思い、「もうすぐ夏休みだけ頑張るよ」と言うみんなのペースは益々上がります。お陰で、夏休み前に畑の草はポツリポツリとなり、花の苗も日差しから非難しました。

夏休みも明け、元気な顔で「ただいま〜！」と、続々と園に戻ってきました。みんな、良い色に日焼けして（ついでにふっくらして）います。楽しみも終わりこれから作業が始まっちゃうな〜…と思いきや、今月はキャンプがあったのでした。料理が上手な蒼ちゃんと由美ちゃんが活躍するかも？さて、どんなキャンプになるでしょうか？乞う御期待！

有働



療育シリーズ

ジュントル・ティーチング

園長 土井尚典

クレイトン大学のジョン・マックギーの講演原稿を読んでいて非常に素朴なことに気がつかされた。彼は指導者がどんなにあの手この手を使っても心を許さない障害者にどうやって接近するかということに研究を試み、実践をして来た。その全貌を紹介することはできないし、わたしは十分彼の研究を知らないのですが、三気の里をイメージし読んでいるうちに、ハッとさせられたことを紹介したい。

心を許さない人はまず何が大切かと言うと、その人にとって安全かどうかであると言うことである。指導者(特定の人)と一緒にいることを障害者が安全と感じるからである。そのためにもどうするかである。マックギーは「共に一緒にいる」という交わりの感情を持たせることであると言っている。その仮説として、「人は本来人と一緒にいたいという気持ちをごくかにもっている」と言う事である。そのためにも道具として指導者のもつ「手・口・顔」を使いなさいと言っ

ている。

手は障害者を拘束したり、指図するために使うのではなく、手が触れている間は安全と言うことを伝えるために、優しく相手に触れ、逃げ出したければいつでも逃げ出せるように手を触れる。またその手は障害者に援助の手となることも伝えて行かなければならない。

口は言葉である。言葉は指導者と一緒にいることが安全であるという言葉使いをしなくてはならない。さらに心が向上してくるような言葉を選ばなくてはならない。

顔は表情である。苦しんでいる人への最大のプレゼントは表情であると言っている。安全と安心を与え、共にいる喜びを与えるような顔をしなければならぬ。彼は仏教用語を使って顔を「眼施(げんせ)」と「顔施」と言っている。即ち目の表情も同時に言っている。私たちが動作法の訓練をやっている時は、まさにこの「手・口・顔」の使い方が一致する。手でトレーニーに動作課題を与え、その同じ手で痛みや不安を与えてはいけない。痛みや不安を与えそうなのはサットゆるめなければならぬ。口は正しい動作を教え、励ま

し、トレーニーが頑張っていることを認めなければならぬ。顔は目と表情で訓練者の真剣さとトレーニーの頑張りに対する優しさとも励ましを伝えなければならぬ。

マックギーの論文でもう一つは、障害者の反応(変化)に対し、それ以上の速さで指導者がプロとして変化しなければならぬという事である。その根底にある指導者の生き方として、例えば、指導者としてとても受け入れにくい行動をする障害者で相性が悪いのではないかと思われる人に出会ったときである。マックギーは「援助者とは非常に高いレベルの天職である。我々援助者は市井の人、一般の人であつたら我慢できないことも容認できる人であることを期待されている」と言っている。日本語訳が氏の真意を尽くしているかは分からないが私はこの仕事の原点を感じた。



食堂営業中

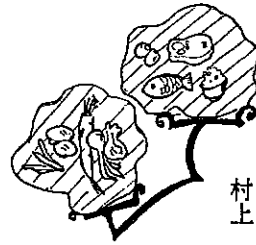
待ちに待った夏休み。普段とは違い、不安になるほど少ない食数に、思わず厨房職員はニッコリしてました。しかし、こんな機会にしか出来ない事もあります。メニューもそうですが、今年は特に衛生面で、食堂と厨房にバルサンをしました。最初は食器や鍋、全てを外に出し、終わると掃除をしてから、元の位置に収納という簡単な作業でしたが、一度に全てをやってしまったとなると大変な量でした。バテてしまったけれど、終えた後はすがすがしく、普段に増して充実した時間に思えました。 前田



栄養の話
「食事は酸性、アルカリ性を同時に！」

酸性の食物は血液を酸性ににしてしまうから良くないと言われますが、大きな誤解です。酸性食品には、肉、魚、卵、米など、みんなが好きな物。アルカリ性食品には、野菜、海藻、きのこなどビタミン、

ミネラルが多い食品で、これは進んで食べないと不足しがちな物。つまり、好きな物ばかり食べずに不足しがちな物を食べなさいという栄養教育の一つの考え方なのです。ですから、酸性を避けてアルカリ性だけを摂るのではなく、どちらにもバランスよく食べましょうね。



村上

東京研修

高橋 千草

7月31日〜8月1日の2日間に渡り、発達協会の実践セミナーに木下、石丸、多田、高橋の4名で参加させて頂きました。

4名の講師の方々が「自閉症児と最新医学」「自閉症児の育ち方育て方」「自閉症児・者の問題行動とその対応」「自閉症児のためのライフ設計」のテーマで講演され、中でも園長や石丸の話から河島先生の「自閉症児・者の育ち方育て方」は楽しみにしていたことがあって、実際に話を伺うことが

できて感動でした。

河島先生は、24歳の自閉症の息子さんの母として、小児科医として、療育者として、社会に誇れ、家族の中で、彼がいないと困るんです」とまで言える程の男性に育てたことを自信を持って話されました。只今彼は洋裁という仕事を持っているだけでなく、家事や、具合の悪い祖母の面倒も見ているとのことでした。誰でも彼のことをハイファンクシオンな自閉症だと思いがちですが、幼い頃は重度であったけれど、大人になって困らないように丁寧に育てたとのことです。療育の手引きとして講演資料「自閉症児とともに、母として、小児科医として」は、総論から、診断、実際の取り組みが書かれており、必見に値すると思います。私達が持っていますので一度読んでみて下さい。

最後に発達協会の研修はたいへん有意義であり、10月の講座は佐々木先生や、動作法の今野先生の講話が予定されているので参加したい！と、たんばの紙面を借りてお願いするのは、我がままでしょうか。是非また、研修出して下さるようお願いいたします。



我が家の夏休み

角田

一裕が三気の里にお世話になり、初めての夏休み。いつもの通り冷凍食品を作り、準備を始めました。構えていた様な気がして、終わってみると自己満足だけ、なんて結果にならない為に自然体で行こうと思いました。何事も一緒にする暇な時間を作らない、生活のリズムを崩さない。これだけを守り、一裕と共に従事する方向へ行けたら良いな、ただ一裕にとって24時間は長すぎるし、使い方が本当に

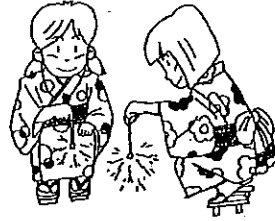
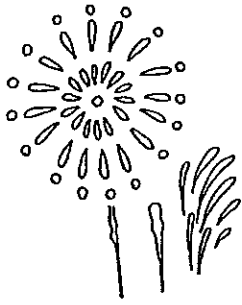
難しいと感じました。毎年5日も過ぎると目がくぼみ、「疲れた顔をしているね」と言われていたのですが、今年は疲れることがありませんでした。毎日散歩、お城、街、なるべく人の居る場所、公園と3時間程汗をかきながら歩き、夕方自分の好きなものを買って帰るといいう日々でした。運動公園では、リュックにお弁当を入れ、50分かかり着いたのに、広い公園の中を1周してしまい、「足が痛い」と独り言を繰り返りに言っていました。手をつながなくても安心して歩けたのは幸いでした。



夏祭り

今村 由紀

八月三日(木)に、三気の里の夏祭りを行いました。今年のメインはカラオケ大会で、中庭の特設ステージでは、各班代表の二六名が自慢ののどを披露しました。歌はもちろんのこと、踊りあり、デュエットあり、アカペラありでカラオケ大会というより宴会にも似た笑いの絶えない二時間でした。音楽が大好きなみんなは、景品のカラオケボックス利用券で思いっきり歌って(踊って)、ますます自慢ののどに磨きをかけることでした。



療育キャンプに参加して

佐藤 香織

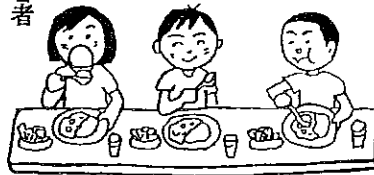
第5回自閉症児・者のための実践キャンプが、8月6日〜9日の4日間、三気の里で実施されました。

キャンプは、13歳以上のトレーニー23名、スタッフ29名構成で成され「指示に従う、人に伝える、我慢できる、場面に合わせて動く」の4つを目標とし、指導訓練して行くといったものでした。今回は、これまでの4回とは少し内容を交え、より細かく、詳しく、深くできるように、1班(廊下掃除・おふる掃除・草取り)、2班(ワークシステム)、3班(動作訓練)、4班(登山)といった4班編成で作業課題を行いました。「プールは?」と言って楽しいキャンプを期待していたトレーニーには大ショック?何往復もの廊下の汽車拭き、炎天下の中での草取り、じっと耐えながらの動作訓練、きつく苦しい登山を、抵抗し、汗し、涙しながらも、スタッフと共に頑張りました。

4日間という短い期間ではありませんでしたが、トレーニーとトレーナーとが一对一で向かい合い、集中

し、徹底して指導することが重要であると教えられました。このキャンプで、今までの自分を見つめ直す事ができ、新たな気持ちで頑張ろうと思っています。

参加・協力頂いた皆様、お疲れさまでした。



第34回なすな障害者

教育福祉合宿研究会

田邊 剛政

た。今まで、戦争と障害者、福祉という言葉とが結びつかなかったものが、この原爆の地長崎において語られることによって、より密接であることを知り、人間の生命の尊さを改めて痛感した。分科会では保育教育と共生、地域在宅と共生、施設生活と共生と、現状での問題点などが討議されたが、もう一つアジア・環境と共生という大きなテーマの分科会もあり一味違った視野を広くした討議もなされた。最後に、この研究会を支えておられるスタッフの皆様、有り難うございました。

「おおらかに、こまやかに、さりげなく」(原理語録より)

8月8日〜10日の(9日の原爆の日を挟んで)2泊3日で長崎の国見山荘において合宿研究会が行われた。北は北海道から南は沖縄まであらゆる所からあらゆる職種の人が集まり共に生活をした。今回のテーマは「戦後50年、拓こう共に生きる道を!」ということで戦争・平和について語られ、その中に障害者の人権、共に生きるとはどういうことかということが織り込まれ中身の濃い研究会であっ



ふれあいキャンプ

満原 千保

8月10日(金)、11日(土)の1泊2日で大津町社会福祉協議会の主催でふれあいキャンプが陽の原キャンプ場で行われました。三気の里からは、松島さん、中嶋くん、神沢さん、坂本さんの4名の園生が参加しました。あいにくの空模様ではありましたが夕方には雨もすっかりやみキャンプファイヤーでは、坂本由実ちゃん扮する弥護山の女神が登場しロマンチックな気分に合わせてくれ、心和む雰囲気でした。

1泊2日の短いキャンプではありましたが、私自身、他施設の職員との交流が出来、友達の輪が増えました。私にとってこの夏の一番の思い出になりました。社協の皆様、他施設職員の皆様大変お疲れ様でした。



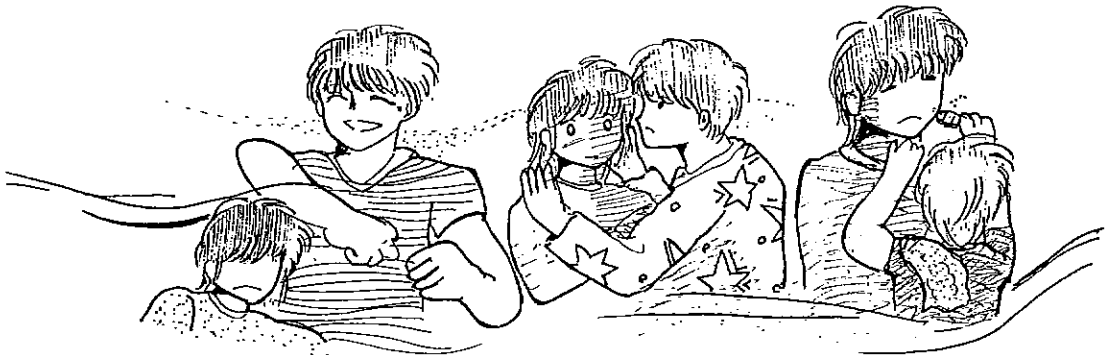
ワークキャンプを終えて

小細工 恵美子

最初ワークキャンプを申し込んだ時は、遊び半分な気持ちでした。だから、7月25日に初めて三気の里に来た時は、二泊三日やり過ごせるかどうか、とても不安でした。前にも何度かボランティアに参加したことはありませんでしたが、それは全く違い、木工班で作業を一緒にしたり、食事をしたり、お風呂に入るのを手伝ったり、お話しをしたりなど日ごろ学校では体験できないことができて、中身の濃い三日間でした。一日目の木工作業は、来てすぐだったせいか、圧倒されて自分の思う道理に動けずとても戸惑いました。二日目は、レクレーションで海水浴に行きました。海におぼれたり、遠くに行ってしまう人などいてハブニングだらけでしたが、帰って来て、お風呂から上がった後のみんなの顔を見たら、疲れも吹っ飛びました。又、お風呂の前では、職員の人達と話をし、いろんなことを教えてもらってとても楽しかったです。二日目になると、最初は言葉がよく理解できなかったけど、少しずつわかってきて話しかける回数も

増えてもっと話たいという気持ちになりました。三日目になると一日の流れがだんだんわかってきて、時間が早く過ぎて行くように感じました。

振り返ると、ヒゲソリをしたり、キス攻撃にあったり、めったにできない体験ばかりで本当に申し込んでよかったと思います。まだ進路が決定しないままワークキャンプが始まりましたが、今は福祉関係の仕事につくために勉強を頑張ってみようと思います。もし福祉の仕事をする事になったらこの二泊三日で職員の皆さんに教えてもらったことなどを思い出して頑張りたいと思います。本当にこの三日間はわたしの気持ちを大きく変えたキャンプでした。一生の思い出になるとおもいます。園生と職員の皆さんに感謝します。



9月の行事予定

日	月	火	水	木	金	土	備考
15	敬老の日	23	勤労感謝の日		1	2	
※ 金森くん、真一郎くん、健二くん、菜ちゃん、英ちゃん、お誕生日おめでとう! 費 9日 保護者会							
3	4	5	6	7	8	9	一斉帰宅日・保護者会
金森くんの誕生日(27)							
10	11	12	13	14	15	16	
眞一様君の誕生日(22)							
17	18	19	20	21	22	23	勤労感謝の日 運動会
健二くんの誕生日(19)							
菜ちゃんの誕生日(22)							
24	25	26	27	28	29	30	
英ちゃんの誕生日(20)							
カンボク編織日							

※ 今月は帰宅バスはありません



ボランティア通信

今年には異常な暑さが続き東京では1世紀ぶりに記録を更新したとか…。とにかく暑い夏でしたが、皆さんは夏バテしませんでしたか？9月28日(土)、夏の暑さもそろそろしない元気な三気の里、三気の家メンバーの運動会が行われます。みんなと一緒に心地よい汗を流しませんか？都合のつく方、当日のお手伝いをお願いします。ボランティア担当、満原・佐藤・石丸に御連絡ください。石丸

〈ボランティアありがとう〉



- ☆夏祭り
 - ☆生け花
 - ☆夏祭り
 - ☆生け花
- 坂中恵美 宗心美樹
高島寿枝 福岡弘子
尾方陽子 池田淳子
藤原圭子 小細工恵美
尾藤勝信 磯部武志
西田純也 西山洋一
- (敬称略)

後援会、入会 ありがとう

- 高森秀之 平島康幸 樋口秀之
- 北里賢二 田口康博 阿蘇品慶伸
- 野満隆夫 梅田幸子 古場留美子
- 吉永脩二 木下祐一 木下真理子
- 吉岡誠治 有屋田諭 魚谷ミサヲ
- 井芹嘉久 藏元外科 横山けんすけ
- 二宮秀樹 清田郁雄 相良久仁子
- 中原喜徳 岡崎文字 久保嘉四郎
- 野田商店 尾田正幸 佐藤多賀子
- 佐藤友洋 岩上静子 向井隆一郎
- 林田純平 竹中広敏 小田久美子
- 宮崎恭一 北島照明 田之上あかね
- 笠 盛中 田中孝雄 小沼貴代子
- 兼坂一子 木本博明 大津あゆみ園
- 大津高校 高橋頌慈 本塩二千博
- 藤本冬子 上村才司 ふきのとう舎
- 清藤文弘 中田康則 渡辺よし子
- 古閑和子 大橋孝良 久光正太郎
- 島津真一 松野建三 ミタカ商事
- 本田幸雄 守 且孝 牛嶋妃佐美
- 服部陵子 中村涼子 緒方恵美子
- 平川義利・ミサ子・とみ子・聖子
- 林田耿介 平川ヤエ子 平島喜久子
- 山本昌央

平成八年八月二十五日付け
 編集後記
 ※敬称略
 夏の休暇は如何でしたか？國岡